

松原市は世界基準(WHO推奨)の安心・安全なまちを目指します

いきいきと安心・安全に暮らし続けたい

年代を問わず、あらゆる人がそう望みます。

では、危険がなく、心安らぐ暮らしやすいまちをつくるにはどうすればよいのでしょうか？

行政が主導するだけでは、真の安心・安全は実現できません。

市・警察・消防などの行政機関と医療機関、そしてこの松原市で暮らす市民の皆さんが連携し、地域が抱える課題は何か、どうすればより安心・安全に暮らすことができるのかを自ら考え、行動していくことが一番の近道であると考えます。そして、それを継続していくことが必要であると考えます。

そこで私たちが、行き着いた答え……

それが『セーフコミュニティ』です

セーフコミュニティとは？
けがを引き起こす事故などは予防することができる

セーフコミュニティは、事故やけがなどは、偶然起るものではなく、「予防できる」という理念のもと、事故や犯罪などのデータを科学的に検証することで地域に潜む危険性を明らかにし、住民らで作る協議会が主体となって安心・安全なまちづくりに向けた対策を講じ、予防につながるもので、行政をはじめ、学校、医療機関、町会や自治会、家庭などが連携・協働して、人と人とのつながりを大切にした住みよいまちづくりを進める取り組みです。

わかりやすく言えば、「転ばぬ先の杖」といったもので、けがや事故の

正式にセーフコミュニティ取り組みのメンバーとして認められ、WHO協働センターのホームページ (http://www.phs.ki.se/csp/who_safe_communities_network_en.htm) に登録されました。

原因を取り除くことにより、それらが起こる前に防いでいこうとするものです。

「安全な地域」と直訳できるこの活動は、スウェーデンで始まり、一定の基準(3ページ参照)を満たした地域に対して、WHO(世界保健機関)セーフコミュニティ協働センターが認証を行っています。

現在、世界で247の地域(平成23年6月1日現在)が認証を受けており、日本では平成20年に京都府亀岡市が初めて認証を受けました。大阪府内では松原市が初めて取得を目指して活動します。

なぜセーフコミュニティなの？

安心・安全なまちで暮らしたいと思うことは、すべての人の願い

WHOの認証を取得することで、松原市が取り組む安心・安全のレベルが、世界基準に基づいて評価されます。また、認証を取得することは、まち全体のイメージアップにつながり、世界中の人々に新たな居住地を考える際などの判断基準として示すことができるのです。

これまでの活動とは違うの？

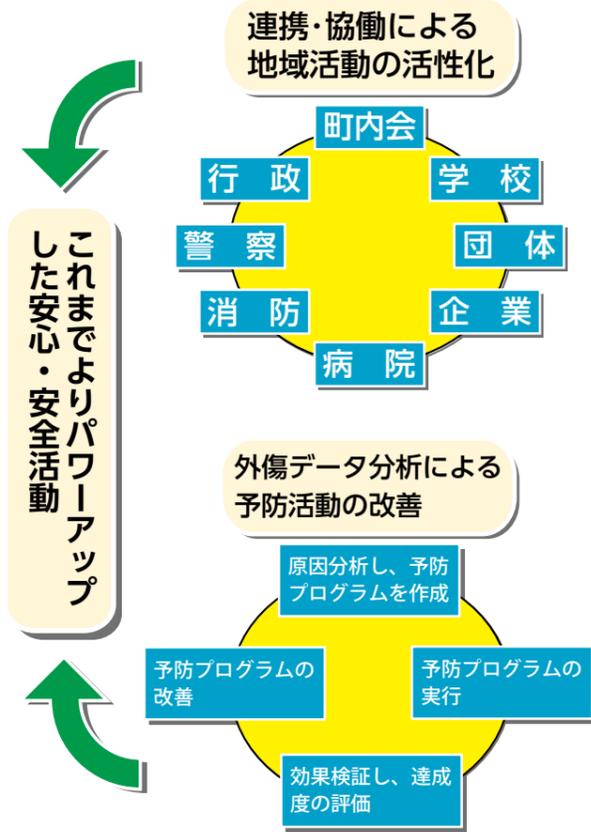
これまでの取り組みを一つの目的に向かって結集

市では、「青色防犯パトロール」や「介護予防教室」、消防本部や消防団による「夜間パトロール」、また地域の協力を得ながら、「子どもの安全見守り隊」活動などさまざまな安全のための取り組みを行っています。「たくさんさんの安全活動があるのに、なぜセーフコミュニティ活動が必要なの？」という疑問もでてくるでしょう。

セーフコミュニティは、今の活動や事業をやめ、新たな活動を始める

認証を取得するための6指標

- ①分野を越えた協働を推進する組織を設置していること
- ②全ての性別・年齢・環境・状況を対象として、長期にわたる継続的な予防活動を実施していること
- ③けがを起ししやすい年齢層や地域などと環境に焦点を当てたハイリスクグループを対象とした予防活動を実施していること
- ④傷害の頻度と原因を継続的に記録する仕組みを持っていること
- ⑤予防活動の効果・影響を測定・評価するための仕組みを持っていること
- ⑥国内・国際的な「セーフコミュニティ」のネットワークに継続的に市として参加すること



このような活動もすべて「セーフコミュニティ活動」です

青色防犯パトロール	子どもの安全見守り隊	介護予防教室	消防車による夜間パトロール
子どもたちの下校時間などに合わせて青色灯を装着した公用車で市内を巡回しています。	PTAや老人会など地域の人たちにより、市内すべての小学校で結成されています。	高齢者向けに体操やトレーニング機器を使用しながら体育館などで実施しています。	放火防止や危険個所の調査を目的に毎月20日に実施しています。
			

松原市は世界基準(WHO推奨)の安心・安全なまちを目指します

セーフコミュニティは「いのちを守る取り組み」

私たちの安心・安全な暮らしの脅威となるあらゆる分野が対象

●事故の防止

交通事故、転倒・転落、溺水、不慮の窒息・中毒、火災など

●犯罪・暴力の防止

他殺、傷害、薬物・アルコール中毒、児童・高齢者虐待、DVなど

●その他

自殺、外傷後ストレス障害（PTSD）、心的外傷（トラウマ）、災害など

年齢層や環境ごとで事件や事故の起こりやすい要因を調べ、対策を施すことが安心・安全なまちづくりにつながります。

こんな効果が期待できます

地域が主体となることで、人と人との信頼や絆が回復

①地域の安全が向上します

同じ場所で、同じようににげをする、また事故が起こるといふようなことはありませんか？ほとんどの事象は偶然起こるのではなく、必ず何か原因があります。



その原因を把握し、対策を施すことで未然に事故そのものを防ぐことができます。

セーフコミュニティの先進地であるスウェーデンなどでは、この取り組みを進めることにより、外傷や事故が約30%も減少しています。

②地域コミュニティ再生のきっかけになります

地域のことはそこで暮らす人々が一番よく把握しています。「みんなが事故にも遭わず、犯罪にも巻き込まれずに、安心して暮らしていくにはどうすればよいのか」を、地域住民が考え、力を合わせてその原因を取り除いていく。



この過程を経ることで、人と人とお互いに信頼しあえる地域を再生し、安全で安心して暮らせるまちづくりが行えるのです。

③地域のイメージアップにつながります

心の通う安心・安全なまちづくりが進むと、地域のイメージアップが図られます。松原市に住みたいと望む人々がきつと増えることでしょう。また、一人ひとりが主体となってまちづくりを進めることで、私たちのまちを「自分たちの誇り」にすることができます。



④医療費など社会保障費の削減に効果があります

社会の高齢化に伴い社会保障費は、年々増加の一途をたどっています。外傷や事故などを未然に防ぐ取り組みを進めることにより、これまで必要とされた医療費や介護費用を削減できるかもしれません。削減した分は、別の事業の財源とすることができます。



数字として目に見える効果をどこまで出せるのかはまだわかりませんが、安心・安全度の向上や、地域の再生、地域のイメージアップについては、目に見えない効果として必ず実感できるはずですよ。

最後に

セーフコミュニティに取り組み、これから育っていく子どもたちへ、さらにその孫まで安心・安全なまちを残していくこと、それが私たちが現在抱いている願いです。

自分自身を大切にしてください。そして、少しだけ周りに目を向けてください。少しだけ手を伸ばしてください。それが強い絆を育んでいく芽となることでしょう。

想像してください。皆さんは、どんなまちで暮らしたいですか。

問合せ 市民安全課セーフコミュニティ係(☎3337・3151)



定例記者会見でセーフコミュニティの取り組み宣言をする澤井宏文市長(5月31日)